

母子保健における民間活動に関する研究 全国民間の電話相談室および患者・親の会のディレクトリー情報

泉美智子¹ 野辺明子² 江井俊秀³ 佐藤禮子⁴ 相場静子⁵
長坂典子⁶ 中村安秀⁷ 内田 章⁸ 中村 敬⁸

【要約】本研究班は、初年度より民間による母子保健サービスの実態を把握することからスタートし、最終年度をもって、全国から収録した民間の電話相談室および患者・親の会の各機関・団体別のディレクトリー集を作成した。これらは、公的、民間機関を問わず、母子保健サービスを行うにあたって、相互に広く利用することができるものであり、本研究班の研究成果として紹介したい。

見出語：民間活動 電話相談 患者・親の会 ディレクトリー

【研究目的】

少子化と高齢化が進む社会の中で、子育てを支援するための多くの対策が立案され、多くの地域で始動しはじめている。この中で、行政による公的サービスのみでは、十分な母子保健サービスを提供することはできず、民間機関やボランティアにより行われている民間のサービスと連携し、その豊富なマンパワーを活用することが重要である。そこで、

今回は、すでに広く利用されている全国の民間の電話相談室と患者・親の会について、ディレクトリー集を作成し、相互に利用することにより、その資源を有効に活用しようとするものである。

【研究の対象および方法】

1) 全国の把握できた範囲の民間電話相談室 195 室にアンケート調査を実施し、うち 116

¹ 泉事務所

² 先天性四肢障害児父母の会

³ 財団法人母子衛生研究会

⁴ 恩賜財団母子愛育会

⁵ 主婦の友「わたしの赤ちゃん」編集室

⁶ 東京都中部精神保健センター

⁷ 東京大学医学部小児科

⁸ 東京都母子保健サービスセンター

室から回答が寄せられた。実態については、すでに昨年報告したので割愛するが、本年度は、これらの調査をもとに、各電話相談室ごとに、以下の17項目を掲載した資料集を冊子として出版する。なお、現在電話相談室ごとに、掲載原稿を点検してもらい、掲載の可否に関する意志を確認し編集集中である。

相談室の名称、相談電話番号、相談時間、相談の内容、所在地、利用者の範囲、電話台数、開設時期、相談件数、相談員の数、保健医療関係者の有無、アドバイザーの有無、相談員の研修の有無、相談員の謝金、運営資金、開設動機、電話相談のポリシー

2) 患者・親の会調査は、把握できた団体86団体のうち、36団体から回答が寄せられた。実態については、すでに昨年報告したので、割愛するが、本年度は、回答のあった36団体と、一部再調査により回答の得られた団体を加えて、次の項目を記載したディレクトリー集を作成中である。

団体の名称、住所・連絡先、電話番号、ファックス、代表者、事務局の活動時間、対象、設立年月日、会員数、会の構成員、電話相談窓口の有無、定期刊行物、他の出版物・ビデオ、活動目的、活動内容、入会方法、資料請求先、入会希望者へのメッセージ

【結果】

電話相談室および患者・親の会ディレクトリーのレイアウトを図-1および図-2に表した。

【考察】

民間における母子保健活動は、ニーズによく対応し、順応性が高く、活発で有意義な活動が多い。しかしながら、その個々の内容が必ずしも知られておらず、また、類似した活動同士の相互連携がとれていないという問題もある。今回作成した、電話相談室と患者・親の会のディレクトリー集は、利用者にとっても、優れたガイドラインになり、また、公的機関、民間機関を問わず、広く、母子保健サービスを提供する現場で活用が可能である。

しかし、これらの活動は、ともすれば資金やマンパワーなどの問題で、運営に支障をきたし、短期間で消滅したり、また、新たに発足したり、新陳代謝が激しいのが特徴である。そこで、これらのディレクトリー情報は、少なくとも2～3年ごとに再調査を行い、更新していく必要がある。

最後に、このような、ディレクトリー情報を整備し、行政と民間が相互に活用できるように配慮し、よりよい母子保健サービスを提供するための基礎資料を整備・管理することは、行政のもつ大きな役割と考えられる。

ピーアンド電話相談室

電談電話 相談時間	03-3292-5678 月・木 10～14時 火
相談範囲	18時30分～21時30分 妊娠・出産に関する相談 育児相談 生活相談 人生相談 病気などの医学的な相談

- ①所在地 東京都千代田区神田駿河台1-5-6-107
- ②利用できる人 誰でもよい
- ③電話台数 2台
- ④開設時期（継続年数） 1984年ころ（継続10年）
- ⑤相談件数 1日で60～80名くらい 1か月で1000名くらい
- ⑥相談員の人数 8名
- ⑦保健医療関係者の有無 あり なし
- ⑧アドバイザーの有無 あり なし（医師）
- ⑨相談員の研修の有無 あり なし（本採用前は、①本を読んでもらう②実際に聞いてもらい、質問してもらう。採用後は、①電話相談のミニミティング ②顧問の先生の講義）
- ⑩相談員の謝金の有無 有給 交通費のみ ボランティア
- ⑪相談電話の運営資金 企業がバックアップしている
- ⑫電話相談開設の動機 小学館のピーアンド誌創刊と同時に依頼される。雑誌としてはユーザーサービスとして始められた
- ⑬電話相談のポリシー ①相手の悩みをまず受け入れること ②情報を整えて的確に水先案内ができること

図-1：電話相談ディレクトリーのサンプル

団体名 ネットワークOJ (略称)

連絡先	〒174 東京都板橋区富士町 25-2 河村方
TEL	03-3961~1985
FAX	
代表者	河村 直
事務局の活動時間	随時 (本人は朝7時~夜6時20分頃是不在です。用件を家人に伝えて頂く場合は日連絡致します)

どのような「障害」や「病気」をもつ子どもたちが対象ですか？

骨形成不全(以下OJとします)症のお子さんと家族の方
あま
 OJ症の主な症状は、骨が弱く骨折しやすいことです。骨折時は激痛を伴い、しばらくの間安静が必要です。平常時でも身体的障害や他の骨が折れるか？、手に痛くはるのでは？と心の負担を抱えています。また両親は、これらの負担の他に、ご自身の将来は？、何と立場上の思いも加わり事態は深刻です

設立年月日	平成5年8月16日
会員数	220名
会の構成員	当事者(OJ有(親))200名、養親会員(医師看護婦他)20名
電話相談窓口の有無	有 TEL 03-3961~1985 <small>(専用)の電話は有りません(連絡する場合は文面で行)</small>
定期刊行物	会報「あ〜あ」(送料が三種郵便物認可)
その他の出版物、ビデオ	現在まで「おし

活動の目的

OJ症は症例数が少ないこと、同じOJ症でも障害に幅が相違することから療養が確立してはいないこと等の理由により、本人を中心とした会が有りませんでした。またOJ有の多くは障害が有りはせぬから、お水の水の形で社会参加をし、より多くの人が精神的自立を果していき、私たちがこの経験を後に続くOJ児とご両親に情報として伝えた。ご存知のとおりOJ有の努力が添がされ、OJ児の医療、教育、日常生活、社会参加などの選択肢を多くし、より充実した人生を送ることが出来るようになっていきました。

具体的な活動内容

1. 年々回の会報の発行
 2. 年々回の総会の開催(東京)
 3. 年々回程度の各地での交流会
- また、少づつですが医療関係者などの援助会員も増えていきました。近々将来、医療界の相談会も開催したいと考えていきました。

入会方法と資料請求先

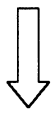
下記へご連絡いただければ、会則、入会申込書、最近発行の会報などを郵送いたします。お水を参考に入会申込書を返送して下さい。
 〒174 東京都板橋区富士町 25-2 河村方 電話 03-3961-1985
 入会希望者への一言メッセージ

確き、悔みはあつた人生、明るく、楽しく生きていける人も生。“空”と認め合い、助け合い、共に生きていける精神のもと、貴方もOJ症の情報交換に参加してませんか？
 ご連絡をお待ちしています。

図-2: 調査・親の会サンプルデータとレイアウト



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



【要約】本研究班は、初年度より民間による母子保健サービスの実態を把握することからスタートし、最終年度をもって、全国から収録した民間の電話相談室および患者・親の会の各機関・団体別のディレクトリー集を作成した。これらは、公的、民間機関を問わず、母子保健サービスを行うにあたって、相互に広く利用することができるものであり、本研究班の研究成果として紹介したい。